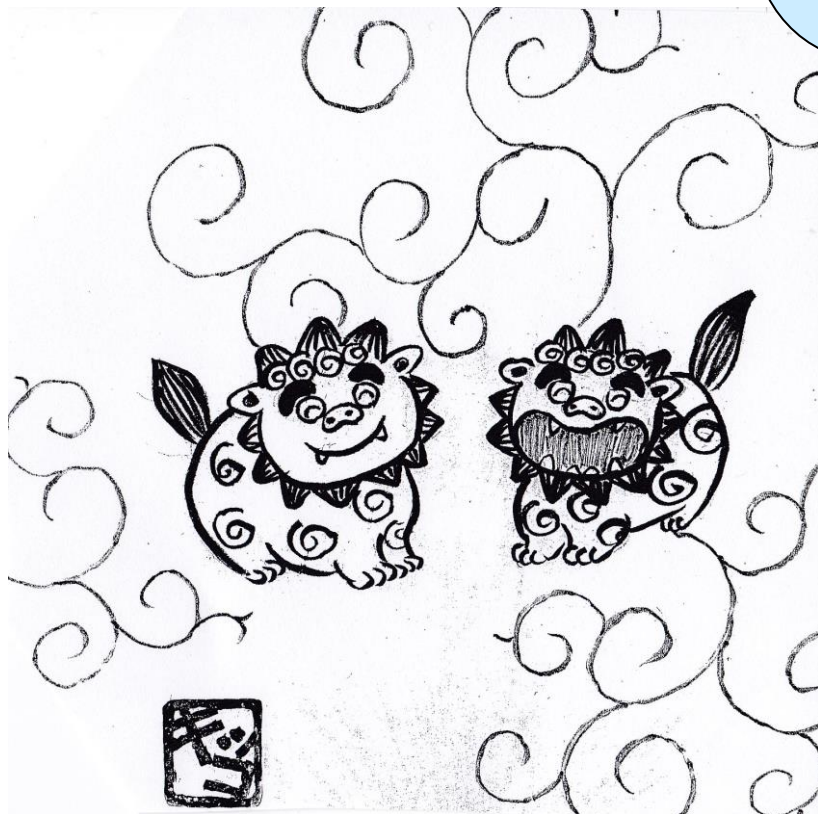


足利風 -ashikaga-fu

2018
2月号
Vol. 54



画：中山 キッコ

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

「草も木も人も同じ水を飲む」

「世界ぜんたいが幸福にならなければ個人の幸福はありえない」と宮沢賢治は言った。賢治は法華経を熟読していた。法華経には“草も木も人も同じ水を飲む”とも書かれている。百寺巡礼・青春の門・連如物語・親鸞などの作家・五木寛之さんが“ボランティア”について書いている～仏教の世界でいちばんボランティア精神に溢れている存在が菩薩です。菩薩は仏ではなく、その前段階なんです。この行者の立派なところは、“ひとりでも救われない不幸な人が世の中に残っていたら自分は仏にならない”という誓いを立てたこと。だれに頼まれたわけでもない。自分の自由意志で救済しようと誓う。～人に尽くす、あるいはボランティアするときに大事なことは、これは人のために何かをしているんじゃなく、自分がそうせざるにはいられないからするんだ、と考えること。～何かをしたあとで、こちらが合掌して頭を下げる、ありがとうを言う。そこまでの境地にはなかなか達しないけれども、そういう考え方があることだけでも知っていれば随分違うと思います。



～どんなに身を粉にして救済活動をしても、不幸な人間は次から次へと生まれてくるのだから、菩薩は永遠に仏になれない。でも、結果、阿弥陀如来という仏になる。菩薩が仏になれたということは、この世の中でひとり残らずすべての人が救われる、どんな人でも確実に救われるんだ、ということ。菩薩行(ぼさつぎょう)ということ。救われた人は菩薩に合掌する、菩薩もまた救われた人に向けて手を合わせる、という循環関係がそこにある。ボランティアが“菩薩行”だと言われるのはそういう共通点があるからだと考えられる。

～人に尽くすということは、つき詰めれば、自分が好きでしているんだということ。そう考えると、自分で決めた以上は、“させていただく”という謙虚さが心に芽生えてくる、と思うのです。～

(M生)

* 茶論「山桜と友禅和紙でマイ箸置きづくり」*

9月30日(土)午後、足利市民活動センター3Fみんなの広場は、約20名の参加者で、楽しい雰囲気溢れていた。手作り工房・熊倉拓哉さんの指導で“食卓を優雅な気分にしてくれる世界に一つだけの山桜と友禅和紙で創るマイ箸置き”を、ワイワイガヤガヤと和やかな中で作りました。こんな風な茶論も時々“いいなあ！”というのが参加者みなさんの感想でした。

* 「振る舞いとしつらえ」 *

～日本の伝統文化を愛する建築職人 飯島秀雄～



住宅の生活様式が明治、大正、昭和、平成へと時代の流れとともに変化し、単一的な生活環境から多種多様な生活スタイルへと変化しつつ、今日に至っております。果たして、この生活環境が幸せなことなのでしょうか！
つまり、五感を体で体感する生活が少なくなり、体を使わなくても日常生活ができる環境へと？ 人間も動物であり、動物は自然環境に適合し、生きていく、しかし、人間は知恵があり、「しつらえ」への変化に応じて「振る舞い」も変化してまいりました。では、住まいの環境への移り変わりが多様化した今日、住まいの室内には本来、飾りに窮屈な定めがなく、どのような芸術も宗教も思想も拒まない抱擁性の空間であり、その部屋に集う人々が、多様な価値観を認め合い、協調と和合の境地に至るよう、導く役割を果たしているのが住まいの生活環境である。そこに基本とする「振る舞いや躰」が必要とする環境が生じる。このような過程で、マナーに仕立てていくという段階があり、やりとり・手振り・手順・身振り、という一連の動作が、「振る舞い」という形が、できた。

日本人の生活に深く根を張り、受け継がれてきたのが和室である。和室は実は人を結びつける要めとしての役割を果たしている。今日、「しつらえ」の空間の部屋を造る職人と、そこに住みつづける住民の「ふるまい」が身につけているのか？ 日本の文化を伝える基本であり、これらの事を伝えるのが今、私に課せられた責務かと、つまり融合する住居でなければ住宅とはならない。住宅が多様化しても、忘れてはならないものがある。お客様に心をこめての対応、家族間においての礼儀が躰の基本となる。日本の文化のひとつとして「あえて座すること」「和合の空間であり」「職人による洗練された意匠」「伝統に潜在する美しさと技」、上記の感覚は「振る舞いとしつらえ」から感じる事ができるのである。



* 子育てフリーペーパー「おともり」 *

私たちは、足利在住の子育て世代を対象としたフリーペーパー「おともり」の創刊準備をしています。市内のママ世代の皆さんに「足利をよりたのしむ」ための子育て情報や、足利市の魅力をお届けする誌面を企画中です。このフリーペーパーは、企画、撮影、デザイン、配本の全てを実際に足利市で子育てしている主婦が行います。1回だけの発行ではなく継続的に発行していくため、みなさまのお力が必要です。企業・店舗さま向けに広告費や賛助会員という形で募っています。ご興味を持って頂いた方はぜひメールでお問い合わせ下さい。

特定非営利活動法人おともり(申請中)

代表: 田嶋美歩 mail: mihotajima@otomori.info

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★2月16日(金) PM2:00～4:00

- * 本 : 絵本「拝啓サクラさく」(絵・黒田征太郎 文・日暮真三)
- * 案内人 : 青木 理沙 さん
- * 朗 読 : 平井 登志子 さん
- * ひとこと : 「散ることを知りながら、咲くことを恐れない」という言葉に感動しました。サクラの季節に読みたくなる名作絵本です。「桜の花が咲きました。あなたのいない春なのに。咲きました、咲きました。まるで怒っているように。わくわくわくわくと咲きました・・・」胸にしみる言葉と絵がいっぱいの美しい大人の絵本をみなさんと一緒に！

★3月9日(金) PM2:00～4:00

- * 本 : 「喧嘩草雲」(司馬遼太郎著)
- * 案内人 : 白田 明さん
- * ひとこと : 司馬遼太郎さんが、足利の田崎草雲という稀有の男の壮絶な生き様を描いた短編小説です。～草雲もまた、なみはずれた気魂をもって生まれている。が、草雲のばあいは、気魂は気魂、画技は画技、武術は武術で三者ばらばらの他人であった。三つが溶けていない～と書いてはいるが・・・一人の人間としての草雲がたまらなく愛しくなるのです。

■会場:足利市民活動センター

■参加費:無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 2月・3月のご案内 ～

- * “仮名で遊ぶ” 上村慎一 書展 2月 5日(月)～2月15日(木)
- * 全国郷土の雛人形 展 2月19日(月)～3月 1日(木)
- * 東日本大震災7周年 展 3月 5日(月)～3月15日(木)
- * 表紙原画&穂月明 展 3月19日(月)～3月29日(木)

☆相談室&講座のご案内

- * 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- * 講 座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

* 編集後記 *

若い頃、水俣に通っていた。石牟礼道子さんともよく話した。彼女の句～来世にて逢わむ君かも花御飯～生まれ変わったらあの人に会いたいものだ。その時は花御飯をさしあげよう～この世のものとは思われないほど水俣の花々は鮮やかだった。女の子たちが“花まんま”と、ままごとをしていた。
(カサブランカ)